

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）						
公表：令和 5年 3月 15日		事業所名 子どもデイサービスmomo				
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	2	2	利用者に合わせて位置を変更する等、安全面等に考慮し工夫している。	コロナ禍でマスクが出来ない子のスペースが狭い時がある。利用人数が多い時が適切と言いたい。利用者によっては職員が多く更に排泄支援者も重なった際は狭いと感じる事がある。
	2 職員の配置数は適切である	10				余裕がある。出入り浴槽への移動の際に課題があると感じた。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	3			利用者がいる室内はすべてフラット。浴室の改修は難しいが入浴方法を工夫することで介護者の身体的負担を軽減させる工夫が必要ではないか。利用者のトイレ介助の際には狭いと感じる。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	10			利用者チェック表を作成した。半年に一度人事考課が実施されている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10			管理者から周知があり業務改善に繋げている。	支援会議前に要望などアンケートを始めた。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	3			実施予定。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	1		適宜研修を行っている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10				事前に保護者へ要望を聴取している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	1			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	1		担当を作り会議チームで連携を図っている。話し合いをしながら行っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	2			職員間で適宜意見交換を行い工夫している。他職種が関わるようにしている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	1		タイムスケジュールを作成している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	1			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10				事前会議、会議前会議を実施している。
	16 支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10				終礼で振り返りを行っている。会議報告書を作成し周知している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10				連絡帳や日報に記録している。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10				モニタリングは毎月行い半年に一回保護者との個別支援会議を行っている。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	9	1				
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10				
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	10				受け渡しの際は申し送りを受けている。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10				医師指示書の運営。アセスメントシートや救急連絡カードに緊急連絡先を記載している。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	1			保育所等訪問で共有している。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	2			
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	2	1		
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	1	7		コロナ禍で行えていない。
	27 （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	4	1	5		コロナ禍で行えていない。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10				送迎の際に保護者に子どもの様子を伝えたり、必要時に電話する等して共通理解を図っている。
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	4	3		
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10				
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10				
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	2	6		コロナ禍の為、難しい。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10				対応する全職員への対策、周知を行っている。苦情発生時はかならず管理者に報告し、迅速かつ適切に対応している。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10				年2回実施している。定期的にお便りを発行している。
	35 個人情報に十分注意している	10				
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10				
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5		5		コロナ禍で行えていない。
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10				定期的に訓練を実施している。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	1	1		定期的に訓練を実施している。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10				定期的に研修を実施している。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	1			対象の事例なし
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	1			指示書に基づいて対応している。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10				発生した際はすぐに作成し、全職員への対策周知を行っている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）						
公表：令和 5年 3月 20日			事業所名 子どもでサービスsmile			
	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	1		物を置かないようにしている。利用人数が多い場合は適切とは言い難い。
	2 職員の配置数は適切である	7	1	0		
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	4	0		入浴は機械浴を取り入れる事でより安全に入浴できる。入浴方法を検討することで介護者の身体的負担を軽減する工夫が必要。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	3	0		
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	3	1		
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	0		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	4		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	0		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0		
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	1		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	2		
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	3	1		
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	3	1		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	0		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	0		
	16 支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	0		適宜
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	0		
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0	0		
関係機関や保護者との連携	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	1	1		
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	2		
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8	0	0		
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	0	0		
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	0	2		
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2	1		
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	4		
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	0	6		コロナの為実施は難しい
	27 （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2	0	6		
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	0		
保護者への説明責任等	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1	4		
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	0		
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	0		適宜
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	0	6		
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	0		
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	0		
	35 個人情報に十分注意している	8	0	0		
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	0		
非常時等の対応	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	0	5		
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1	1		
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	0		
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	0		
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	2	2		適宜検討はしている。身体拘束は行っていない。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	0		ある場合は対応している。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	0		